

# CEFR 読解指標に基づく日本語能力テスト開発の試み

谷 誠司・宮崎 佳典・安 志英・元 裕璟

## 抄 録

言語能力の国際基準である CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) に大きな関心が集まっている。CEFR は言語能力を A1 ～ C2 レベルの 6 段階に設定し、各レベルには何ができるかを示す複数の CDS (Can-Do Statements、以下 CDS) から記述されている。我々の研究グループでは (DIALANG の) CEFR 読解 CDS の中から A1 ～ B2 レベルにあり、「必要な情報を探し出す」と「手紙やメールを読む」の下位尺度に該当する CDS に限定して、「日本語 CEFR 読解指標 (CDS) 推定支援 Web アプリケーション」から抽出した CDS との適合度の高い例文を使って、日本語読解テストを開発した。開発した日本語読解テストを使って韓国人日本語学習者 (大学生) 53 名を対象に予備調査を 2018 年 12 月に実施した。本稿ではこの予備調査の実施過程と結果について報告する。

キーワード : CEFR (Common European Framework of Reference for Languages)、CDS (Can-Do Statements)、読解 CDS、韓国人日本語学習者

### 1. はじめに

CEFR (Common European Framework of Reference for Languages、ヨーロッパ言語共通参照枠) (Council of Europe 2001) は、Can-Do の概念をもとに作成された言語能力尺度の 1 つであり、世界の外国語教育に導入されている。特に言語能力レベルを A1 から C2 レベルまでの 6 段階で設定し、4 技能 (読む、書く、話す、聞く) などに対して能力記述文 (Can-Do Statements、以下 CDS) を利用してコース・教材・テストの開発が数多く行われている。日本語教育でも CEFR の影響を受け、「JF 日本語教育スタンダード」が発表され、CEFR 準拠の日本語テスト (OJAE やフランスの SELF 等) も開発されている。

一方で、CEFR を構成している CDS には次のような問題点が指摘されている。B2 レベルの CDS を例として取り上げると、「さらに詳細に読む必要があるかどうかを決定するために、広範囲にわたる専門的な話題についてのニュース、記事、レポートの内容と関連性をすばやく確認することができる」のような抽象的な表現で記述されており、実利用とのイメージを結びつけるのが困難である場合が多い。例えば、実際に CDS に基づいて読解のテスト問題や教材を作成する場合、作成者は CDS の抽象的な表現を主観的に解釈して例文を選択／作成するのが現状である。

CEFR に関連する研究として、英語教育（主に CEFR-J での研究）では EFL 教材を基に作成したコーパスを用いた研究が行われている。日本語教育への CEFR の活用に関しては日本語の CEFR 準拠テキストコーパスが作成されていないこともあり、現時点において網羅的に研究されている例はまだ多くは見当たらないが、高田・宮崎・谷（2017）や宮崎・平川・谷・安（2018）の一連の研究がある。高田ら（2017）は DIALANG self-assessment statements<sup>1</sup> の読解 CDS<sup>2</sup> を対象として、韓国内における日本語教育経験のある 13 名の韓国人・日本人の協力者を得て約 1000 文を収集した。収集した例文を使い、日本語例文を「専門性」、「文長」、「文書タイプ」から各 CDS に区別できるように自動化に取り組んだ。宮崎ら（2018）は自動分類化の精度を高め、「日本語 CEFR 読解指標（CDS）推定支援 Web アプリケーション」の開発を行った。

本稿では（DIALANG の）CEFR 読解 CDS の中から A1～B2 レベルにあり、「必要な情報を探し出す」と「手紙やメールを読む」の下位尺度に該当する CDS（それぞれ 5 個と 6 個、計 11 個）に限定して、「日本語 CEFR 読解指標（CDS）推定支援 Web アプリケーション」から抽出した CDS との適合度の高い例文を使って、日本語読解テストを開発し、予備調査を実施した過程と結果について報告する。

## 2. 予備調査概要

### 2.1. 予備調査協力者

韓国国内の大学で日本語を専攻している大学生 53 名に調査に協力してもらった。53 名の属性については以下の通りである。

- 学年（4 年生以上：14 名、3 年生：3 名、2 年生：16 名、1 年生：20 名）
- 日本語学習期間<sup>3</sup>（6 か月未満：6 名、1 年～1 年 6 か月未満：22 名、1 年 6 か月～2 年未満：8 名、2 年～2 年 6 か月未満：7 名、2 年 6 か月～3 年未満：1 名、3 年以上：9 名）
- 日本語能力テスト（JLPT N1：6 名、N2：4 名、N3：6 名、N4：1 名、JPT900 点台：1 名、800 点台：2 名、700 点台：2 名、600 点台：1 名、500 点台：1 名）

<sup>1</sup> DIALANG とは、欧州委員会 (European Commission) の資金援助を受け、欧州の 14 言語の言語運用力を CEFR のレベルに基づいて診断する無料オンライン・システムである。受検者が自己の言語能力を自己評価するために DIALANG self-assessment statements が CEFR をもとにして作成された。

CEFR-DIALANG の CDS は CEFR の CDS と比べると、より個別・具体的な記述になっている点が特徴である。

例：CEFR「聞く」B2 レベル：「長い話や講義を理解することができ、適度になじみのある話題であれば、複雑な議論でもついていくことができる。ほとんどの TV ニュースや時事問題を扱った番組を理解できる。標準語の映画なら大半理解できる」

CEFR-DIALANG「聞く」B2 レベル：「話題に比較的なじみがあり、話者が話の筋を明確に示してくれば、長い話や複雑な議論の流れを理解することができる」「標準語のテレビニュース、ドキュメンタリーのような時事問題を扱った番組、生放送のインタビュー、トークショー、演劇、映画のほとんどを理解することができる」

例にある通り、CEFR-DIALANG は CEFR では 1 つのレベルに含まれる項目を切り離し、それぞれ独立させている。（根岸 2006）

<sup>2</sup> DIALANG self-assessment statements の読解 CDS は 31 個から構成されるが、C1、C2 レベルと、読解力よりも語彙力を求められる B2 レベルの 1 個を除いた 27 個の CDS を対象にして例文を収集した。

<sup>3</sup> 6 か月～1 年未満の選択肢を入れるべきであったが、確認不足で抜け落ちてしまった。

- ・日本滞在期間（6か月未満:50名、6か月～1年未満:1名、1年～2年未満:2名）

## 2.2. 予備調査用テストの作成

### 1) テスト項目の作成

韓国で日本語を教えている、あるいは教えた経験のある日本語教師4名(韓国人2名、日本人2名)に作問を依頼した。作問者は作問対象のCDS11個とその記述内容を分析した表(塩澤・石司・島田2010)、そして作問対象のCDSと最も適合度が高い例文(「日本語CEFR読解指標(CDS)推定支援Webアプリケーション」より抽出した。例文の画像情報があれば、例文と共に提示した。)を見て、CDS1個につき1題以上の作問を行った。(図1参照)また、作問にあたっては、テスト項目の形式上の条件と作問上の注意点を提示した。

テスト項目の形式上の条件：①設問数は基本的には1つだが、例文の長さによっては2つ以上も可。②客観式の設定で正誤式(○×式)や多肢選択式(選択肢は3つ。ただし、その後「分からない」の選択肢も加えた。)にする。③例文を読む前に状況設定や何をするのかの指示文を書く。(レベルによって適切な言語[韓国語 or 日本語]を選択する。)

作問上の注意点：①テスト項目を作成するときは、教えている学生を念頭に置くのではなく、あくまでもCDSの記述内容を反映させる。②CEFRに対応しているケンブリッジ英検、ならびに1例文に対して1設問の形式で多様な客観式の設定を出題している韓国の大学修学能力試験<sup>4</sup>(英語)の問題例を見て、参考にする。

#### サンプル問題作成\_手紙やメールを読む のファイル

- ・「手紙やメールを読む」は5つのCDS(scan do statements)があります。
- ・以下でサンプル問題作成ファイルの基本的構成を説明します。

| CEFRのレベル | CDS  | 条件 | 話題・場面          | 対象(テキスト)                              | 行動    |
|----------|--|----|----------------|---------------------------------------|-------|
| A1       | 6. もっとも一般的で日常的な状況でよく出くわす、簡単な提示にでているような、なじみのある名前、単語、または非常に簡単な句。 | □  | もっとも一般的で日常的な状況 | 簡単な提示にでているような、なじみのある名前、単語、または非常に簡単な句。 | 認識できる |

必要情報を探し出す

<原文>  
お静かに!!

<サンプル問題>

注意点:  
①設問数は文章の長さによるが、長い文章では2つか3つ(正誤問題のような形式もありえる。)  
②選択肢は3つ(正答の選択肢には○をつける。)  
③文章の前に文章を読まなければいけない状況設定や何をするのかの指示文を書く(レベルによって適切な言語(韓国語 or 日本語)を選択する)

図1 作問者が作問するときに使ったファイル(一部)

<sup>4</sup> 大学共通の入学試験であり、日本の大学入試センター試験に相当する。

作問者には作問したテスト項目に対して作問時に感じたことや苦勞したことも自由に回答してもらった。更に作問過程全体に対しての感想や要望も書いてもらった。

## 2) 出題テスト項目の決定

作問者とは異なる研究チーム（韓国で日本語を教えている韓国人1名と情報科学を専門とする日本人1名）を構成し、作成されたテスト項目をCDSとの適合性やテスト項目としての質から評価し、CDS 1つに対して最も評価の高いテスト項目を選定した。1つのCDSに対して設問が2つ以上ある場合もあり、最終的な項目数は15となった。

## 3) 予備調査用テストフォームの作成

Google フォームを利用して予備調査用テストフォーム（図2）を作成した。テストフォームはパート1（個人情報等のフェイスシート）、パート2（「手紙やメールを読む」のCDSに対応したテスト項目）、パート3（「必要な情報を探し出す」のCDSに対応したテスト項目）、パート4（テスト項目をどのように解答したかを尋ねるアン

**2018 일본어 독해 테스트**

이번 「2018 일본어 독해 테스트」에 응해 주셔서 대단히 감사드립니다.  
본 테스트는 다양한 일본어 문장을 어느 정도 읽을 수 있는지를 평가하기 위한 것으로, 이번에는 「편지나 메일」에 관련된 문장과 「정보 찾기」에 관한 문장을 대상으로 하고 있습니다.  
도한 본 테스트를 마친 후에 수험자들에게 그 결과를 보고해 드리고 있습니다.  
(아래의 「메일 주소」에는 「자주 사용하는 메일 주소」를 입력해 주십시오.  
입력하신 메일 주소로 송신 확인 메일과, 이후 결과 보고 메일이 도착합니다)

본 테스트는 이하의 4가지 파트로 구성되어 있습니다.  
파트 1 : 이름, 학번, 일본어 학습기간 및 JLPT 합격 급수 등의 개인정보 입력  
파트 2 : 편지나 메일에 관련된 문장을 바르게 이해 할 수 있는가를 조사하는 테스트 (5문항)  
파트 3 : 문장에서 정보를 찾아내는 것이 가능한가를 조사하는 테스트 (6문항)  
파트 4 : 문제를 어떻게 풀었는가에 대한 양제이표 (11문항)

본 테스트에서 수집된 주개안정보는 연구 목적 이외에는 사용하지 않습니다.  
또한 연구대표자의 책임 하에 엄중히 보관·관리 합니다.

본 테스트에 관한 의문이나 질문이 있으시면 아래로 연락처로 연락 주시기 바랍니다.

\*\*\*\*\*

(連絡先) 東京大学 外国語学部 グローバルコミュニケーション学科  
教授 谷 誠司 (研究代表者)  
〒422-8501 静岡県静岡市駿河区弥生町6-1  
TEL. 054-297-6191(研究室)  
E-mail: fcsiseji@sz.tokohu.ac.jp

\*必須

メールアドレス\*

図2 予備調査テストフォーム画面<sup>5</sup>

<sup>5</sup> タイトルを日本語にすると、「2018 日本語読解テスト」となる。タイトル下の説明文には、このテストが4つのパートから構成されていること(パート1：名前、学籍番号、日本語学習期間やJLPTの合格級などの個人情報の入力、パート2：手紙やメールの文章を正しく理解できるかを調べるテスト(全5問)、パート3：文章から情報を探し出すことができるかを調べるテスト(全6問)、パート4：問題をどのように解答したかを尋ねるアンケート(全11問)、調査協力者に後日結果報告のメールが送られること、個人情報の扱い、調査実施者の連絡先等が書かれている。

ケートと自由コメント記述欄)の4つのパートから構成されている。パート4のアンケートは、Weir, Hawkey, Green & Devi(2009)のParticipant Retrospection form、Wu(2011)のCognitive Processing Checklist、そしてBox(2013)のLevels of cognitive processing in reading testsを参考にして作成し、解答するときを使用したと思われる行動を選んでもらった(複数回答可能)。

2.3. 予備調査実施とフィードバック

1) 予備調査実施

2018年12月の補講期間を用いて、2回に分けて予備調査を実施し、韓国国内の大学で日本語を専攻している大学生53名の調査協力者を得た。授業担当者の指示のもと、調査協力者は予備調査用テストフォームに各自のスマートフォンでアクセスし、予備調査に参加した。

2) フィードバック

予備調査実施からおよそ1週間後に全調査協力者に対して、各自の解答の正誤情報と共に各テスト項目に対応するCDSとCEFRのレベルを記載したフィードバックシート(図3)をメールで送った。

受験番号: 1234567  
 氏名: 谷誠司  
 (E-mail address: taniseiji@gmail.com)

| 問番   | 問題番号 | 正誤 | 正誤  | 正誤                            | CEFR<br>レベル | 本問の正誤を必ず確認し、正誤が異なる場合は必ず<br>必ず訂正し、訂正理由を必ず記入してください。                          | 備考欄(自由記述)         |
|------|------|----|-----|-------------------------------|-------------|--|-------------------|
| 1    | 1    | 正  | 1   | 새해 복 많이 받으세요.                 | A1          | 접사 용어 쓰여진 문고 간단한 메시지를 이해할 수 있다.  | 「문제를<br>확인<br>하시」 |
| 2    | 2    | 정  | 2   | 시험을 잘 친구를 부탁한다.               | A2          | 높고 간단한 개인적인 문장을 이해할 수 있다.  |                   |
| 3    | 1    | 정  | 1   | 返事は必要ではない.                    | A2          | 전체한 주제가 문해서 일상의 정제화된 문장이나 핵심을 이해할 수 있다.                                    |                   |
| 4    | 1    | 오  | 3   | 田中さんが韓国に行ったと、余さんが田中さんに親切にあげた。 | B1          | 개인적인 문장을 읽고 시간, 상황, 조항의 표현을 이해할 수 있으며, 친구나 지인간 서신으로 교류할 수 있다.              |                   |
| 5-1  | ○    | 오  | ×   | ×                             | B2          | 자신의 연봉봉이에 관련된 문헌(문장, 지필, 수필)을 읽고, 읽기 필요한 의미를 파악할 수 있다.                     |                   |
| 5-2  | ○    | 오  | ×   | ×                             | B2          | 자신의 연봉봉이에 관련된 문헌(문장, 지필, 수필)을 읽고, 읽기 필요한 의미를 파악할 수 있다.                     |                   |
| 5-3  | ○    | 정  | ○   | ○                             | B2          | 자신의 연봉봉이에 관련된 문헌(문장, 지필, 수필)을 읽고, 읽기 필요한 의미를 파악할 수 있다.                     |                   |
| 6    | 1    | 오  | 3   | お静かに                          | A1          | 가장 일반적인 일상적인 상황에서 자주 마주치는 간단한 지시문에 나오는 전속어(명사, 동사, 목적어)의 간단한 구문을 인식할 수 있다. | 「정답을<br>확인<br>하시」 |
| 7    | 2    | 정  | 2   | 3,400円                        | A2          | 읽기, 말하기, 듣기, 시각적 문해 관련 일상적인 지시문에 사용되는 표현을 이해할 수 있다.                        |                   |
| 8    | 3    | 오  | 1   | 1階&2階&5階                      | A2          | 읽기, 듣기, 텍스트, 시각, 청각 관련 문헌(문장, 지필, 수필)을 읽고, 읽기 필요한 의미를 파악할 수 있다.            |                   |
| 9    | 1    | 오  | 3   | 参加者は、余費用に期間に出発することになっている。     | B1          | 문장, 말하기, 읽기 관련 문헌(문장, 지필, 수필)을 읽고, 읽기 필요한 의미를 파악할 수 있다.                    |                   |
| 10   | 1    | 오  | 1,2 | 小林紀子、ミッシェル・スワン                | B1          | 간 문장이나 여러 개의 문장을 읽고, 지시문, 지시문, 지시문을 읽고, 읽기 필요한 의미를 파악할 수 있다.               |                   |
| 11-1 | ○    | 오  | ×   | ×                             | B2          | 올 디 상세하게 읽을 필요가 있는지를 판단하기 위해, 특별한 문헌(문장, 지필, 수필)을 읽고, 읽기 필요한 의미를 파악할 수 있다. |                   |
| 11-2 | ○    | 정  | ○   | ○                             | B2          | 올 디 상세하게 읽을 필요가 있는지를 판단하기 위해, 특별한 문헌(문장, 지필, 수필)을 읽고, 읽기 필요한 의미를 파악할 수 있다. |                   |
| 11-3 | ○    | 오  | ×   | ×                             | B2          | 올 디 상세하게 읽을 필요가 있는지를 판단하기 위해, 특별한 문헌(문장, 지필, 수필)을 읽고, 읽기 필요한 의미를 파악할 수 있다. |                   |

(표 1) 정답 정보와 함께 제공되는 정보

**문해 능력 평가 기준**

A1: 가장 일반적인 일상적인 상황에서 자주 마주치는 간단한 지시문에 나오는 전속어(명사, 동사, 목적어)의 간단한 구문을 인식할 수 있다.

A2: 읽기, 말하기, 듣기, 시각적 문해 관련 일상적인 지시문에 사용되는 표현을 이해할 수 있다.

B1: 문장, 말하기, 읽기 관련 문헌(문장, 지필, 수필)을 읽고, 읽기 필요한 의미를 파악할 수 있다.

B2: 자신의 연봉봉이에 관련된 문헌(문장, 지필, 수필)을 읽고, 읽기 필요한 의미를 파악할 수 있다.

**CEFR 레벨**

A1: 가장 일반적인 일상적인 상황에서 자주 마주치는 간단한 지시문에 나오는 전속어(명사, 동사, 목적어)의 간단한 구문을 인식할 수 있다.

A2: 읽기, 말하기, 듣기, 시각적 문해 관련 일상적인 지시문에 사용되는 표현을 이해할 수 있다.

B1: 문장, 말하기, 읽기 관련 문헌(문장, 지필, 수필)을 읽고, 읽기 필요한 의미를 파악할 수 있다.

B2: 자신의 연봉봉이에 관련된 문헌(문장, 지필, 수필)을 읽고, 읽기 필요한 의미를 파악할 수 있다.

**문해 능력 평가 기준**

A1: 가장 일반적인 일상적인 상황에서 자주 마주치는 간단한 지시문에 나오는 전속어(명사, 동사, 목적어)의 간단한 구문을 인식할 수 있다.

A2: 읽기, 말하기, 듣기, 시각적 문해 관련 일상적인 지시문에 사용되는 표현을 이해할 수 있다.

B1: 문장, 말하기, 읽기 관련 문헌(문장, 지필, 수필)을 읽고, 읽기 필요한 의미를 파악할 수 있다.

B2: 자신의 연봉봉이에 관련된 문헌(문장, 지필, 수필)을 읽고, 읽기 필요한 의미를 파악할 수 있다.

council of Europe / 유럽한 역 | 한국문화사 | 2010년 03월 15일 언어 학습 교구 용기를 위한 유럽문화재단기금

図3 フィードバックシート

### 3. 結果

#### 3.1. 基本統計量・信頼性・JLPT/JPT との関係

予備調査テストの基本統計量は、受験者数が53名、テスト項目数が15、平均値が7.62、中央値が9.00、標準偏差が3.72となり、得点分布は図4のようになった。信頼性はクロンバック $\alpha$ 係数を算出したところ、.85となった。言語テストでは0.8以上が望ましいとされているので(中村2002)、予備調査テストの信頼性は望ましい水準にあると言える。

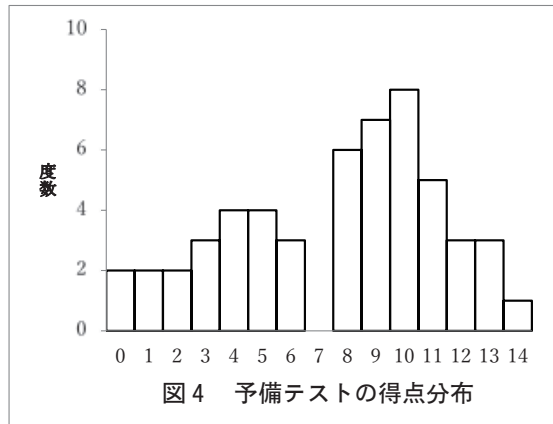


図4 予備テストの得点分布

また、JLPTの合格級と予備テストの合計点との関係を見るために、JLPT N1合格者を1、N2合格者を2、N3合格者を3、N4合格者を4、N5合格者を5とし(全17名)、合計点とのスピアマン順位相関係数を計算したところ、有意な負の相関が見られた。 $(r=-.62, p<.001)$  またJPTの総合得点(全7名)と予備調査テストの合計点の関係をピアソン相関係数で求めたところ、10%水準だが正の相関がみられた。 $(r=.73, p<.10)$  (図5、図6参照)

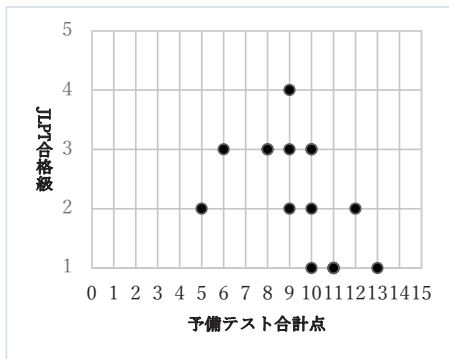


図5 JLPTの合格級と予備テストの合計点の散布図

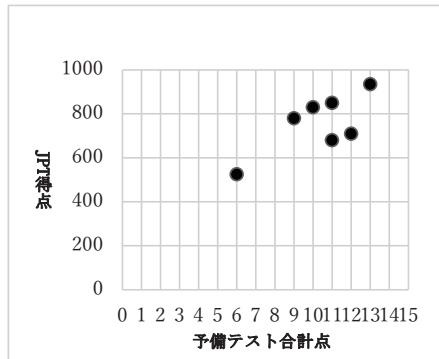


図6 JPT得点と予備テストの合計点の散布図

#### 3.2. 項目分析

予備調査テストに出題したテスト項目の項目安易値(正答率)と項目弁別力指数(得点上位群[得点上位33%]の項目安易値と得点下位群[得点下位33%]の項目安易値の差)が表1・2である。

表1 項目安易値と項目弁別力指数（手紙やメールを読む）

| 下位尺度           | 手紙やメールを読む    |              |              |              |                |                |                |
|----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------------|----------------|----------------|
| 問題番号（CEFR レベル） | 問題 1<br>(A1) | 問題 2<br>(A2) | 問題 3<br>(A2) | 問題 4<br>(B1) | 問題 5-1<br>(B2) | 問題 5-2<br>(B2) | 問題 5-3<br>(B2) |
| 項目安易値          | 0.85         | 0.85         | 0.62         | 0.64         | 0.23           | 0.42           | 0.58           |
| 項目弁別力指数        | 0.41         | 0.41         | 0.71         | 0.94         | 0.18           | 0.71           | 0.88           |

表2 項目安易値と項目弁別力指数（必要な情報を探し出す）

| 下位尺度           | 必要な情報を探し出す   |              |              |              |               |                 |                 |                 |
|----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 問題番号（CEFR レベル） | 問題 6<br>(A1) | 問題 7<br>(A2) | 問題 8<br>(A2) | 問題 9<br>(B1) | 問題 10<br>(B1) | 問題 11-1<br>(B2) | 問題 11-2<br>(B2) | 問題 11-3<br>(B2) |
| 項目安易値          | 0.87         | 0.68         | 0.79         | 0.38         | 0.02          | 0.17            | 0.26            | 0.26            |
| 項目弁別力指数        | 0.35         | 0.76         | 0.59         | 0.53         | 0.06          | 0.47            | 0.65            | 0.76            |

下位尺度「手紙やメールを読む」（表1）において、CEFR レベルが上がるにつれて項目安易値は全体的に下がっており、和泉・高田・小泉・酒井（2018）に従い、CEFR のレベルを A1=1、A2=2、B1=3 のように順位化して、スピアマン順位相関係数を計算したところ、有意な負の相関がみられた。 $(r=-.87, p<.001)$  しかし、問題 1（A1）と問題 2（A2）の間には項目安易値の差がなく、問題 3（A2）と問題 4（B1）は項目安易値が逆転している。特に問題 3 と問題 4 は文字量に差があったが（問題 3 は 49 字、問題 4 は 203 字）、項目安易値に差が出なかった。問題 3 の設問が内容一致を問うものであったのに対し、問題 4 は理由を問うものであり、設問のポイントの明瞭さが影響している可能性が考えられるが、今後更なる調査が必要である。項目弁別力指数では問題 5-1（B2）が .18 と、同じ例文を読む問題 5-2 と 5-3 と比べて低い。原因としては問題 5-1 が正答につながる情報が明示的に例文中になく、類推を要求するためだったと推測される。

下位尺度「必要な情報を探し出す」（表2）においても、CEFR レベルが上がるにつれて項目安易値は下がっており、スピアマン順位相関係数を計算したところ、有意な負の相関がみられた。 $(r=-.78, p<.001)$  しかし、問題 10（B1）の項目安易値が他の B1 レベルの項目より低く、項目弁別力指数も低い。これは設問が正答の選択肢を 1 つ選ぶ形ではなく、正答である選択肢をすべて選択させる形であったことが原因と考えられる。また、最高得点者（14 点 / 15 点満点中）のみが正答していることから、正答の選択肢を 1 つ選ぶ形にするなど修正が必要である。

また、B1 と B2 レベルにおいて、下位尺度「必要な情報を探し出す」のテスト項目が下位尺度「手紙やメールを読む」のテスト項目より項目安易値が低い傾向が見られた。

### 3.3. 作問者からのフィードバック

作問したテスト項目に対して作問者から次のようなフィードバックがあった。

#### 1) CDS と例文のレベルの不一致

問題 4 (B1) : CDS のレベルと比較して、例文 (旅行先でお世話になった人へのお礼のメール) のレベルが易しく、作問が難しい。

問題 5 (B2) : B2 レベルにしては例文 (研究会開催の案内メール) が短いため、作問が難しい。

問題 10 (B1) : CDS のレベルと比較して、例文 (奨学金に関する資格・要件に関する文書) のレベルが易しく、作問が難しいため、出典先から関連の例文を追加した。

#### 2) CDS で記述された読み方と例文の不一致

問題 10 (B1) : CDS では「ざっと目をとおし」とあるが、例文は奨学金に関する資格・要件に関する文書であり、繰り返し読む必要がある。

問題 11 (B2) : CDS では「内容と関連性をすばやく確認する」とあるが、例文は新聞の社説であり、繰り返し読む必要がある。

#### 3) 例文と画像資料の不一致

問題 9 (B1) : 例文の出典先はウォーキングイベントのチラシであるが、例文は申し込み葉書と申し込み方法の部分のみで、画像資料にはそれに加え行先の説明等の別内容が記載されており、例文との違いのためどちらを使って作問すればよいのか迷った。

### 3.4. 予備調査協力者へのアンケート

予備調査テスト直後に予備調査協力者にテスト項目をどのように解答したかを尋ねるアンケートを実施した。時間の関係上、問題 5 と問題 11 は複数のテスト項目から構成されるが、テスト項目単位ではなく問題単位 (例えば、問題 5-1、5-2、5-3 と 3 つのテスト項目からなるが、問題 5 として 1 つとして見る。) で回答してもらった。全協力者のデータでは得点別の解答行動が見えないので、ここでは得点上位群 (17 名) (表 3) と得点下位群 (17 名) (表 4) のアンケート結果を示す。

得点上位群と得点下位群の大きな違いは、前者は解答行動が多様であるに対し、後者はどの問題であっても「13) どれにも該当しない。」を選択する協力者が多い点である。また得点上位群だけを見ると、どの問題であっても「3) 筆者が重要であると示した部分を文章から探した。」と「4) 文章の主要部分 (冒頭部分や結論) を読んだ。」の使用頻度が高い。レベル別では問題 4(B1)・問題 5(B2)・問題 10(B1)・問題 11(B2) といった B1 レベル以上の問題では「9) 文章全体やその一部をゆっくりと慎重に読んだ。」や「10) 文章中で関連している部分をもう一度読んだ。」の使用頻度が上がった。下位尺度別では「必要な情報を探し出す」にある問題は「1) 質問に現れた単語と全く同じ単語を文章内で見つけようとした。」を使用する傾向が高い。



表3 得点上位群の問題ごとの解答行動

|                                       | 手紙やメールを読む   |             |             |             |             | 必要な情報を探し出す  |             |             |             |              |              |
|---------------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|--------------|
|                                       | 問題1<br>(A1) | 問題2<br>(A2) | 問題3<br>(A2) | 問題4<br>(B1) | 問題5<br>(B2) | 問題6<br>(A1) | 問題7<br>(A2) | 問題8<br>(A2) | 問題9<br>(B1) | 問題10<br>(B1) | 問題11<br>(B2) |
| 1) 質問に現れた単語と全く同じ単語を文章内で見つけようとした。      | 4           | 4           | 5           | 4           | 5           | 5           | 9           | 6           | 5           | 5            | 7            |
| 2) 質問に現れた単語と類似または関連する単語を文章内で見つけようとした。 | 4           | 5           | 7           | 4           | 6           | 4           | 3           | 4           | 5           | 5            | 8            |
| 3) 筆者が重要であると示した部分を文章から探した。            | 4           | 6           | 8           | 7           | 7           | 6           | 5           | 8           | 6           | 6            | 5            |
| 4) 文章の主要部分(冒頭部分や結論)を読んだ。              | 8           | 6           | 5           | 8           | 8           | 7           | 5           | 6           | 6           | 6            | 7            |
| 5) 質問中の難しい言葉の意味を理解しようとした。             | 1           | 1           | 3           | 4           | 5           | 2           | 3           | 2           | 3           | 3            | 3            |
| 6) 文章中の難しい単語の意味を理解しようとした。             | 2           | 1           | 3           | 4           | 4           | 2           | 2           | 3           | 4           | 5            | 5            |
| 7) 自分の語彙知識を使った。                       | 6           | 6           | 6           | 4           | 6           | 5           | 5           | 5           | 5           | 5            | 5            |
| 8) 自分の文法知識を使った。                       | 5           | 3           | 4           | 3           | 4           | 5           | 4           | 2           | 4           | 4            | 4            |
| 9) 文章全体やその一部をゆっくりと慎重に読んだ。             | 4           | 3           | 5           | 7           | 6           | 3           | 5           | 4           | 4           | 8            | 8            |
| 10) 文章中で関連している部分をもう一度読んだ。             | 3           | 1           | 3           | 6           | 6           | 3           | 6           | 4           | 5           | 7            | 6            |
| 11) 文章構成の知識を利用した。                     | 2           | 2           | 4           | 5           | 4           | 2           | 3           | 3           | 2           | 4            | 3            |
| 12) 私がすでに持っている知識と文章内の情報を関連付けようとした。    | 4           | 4           | 6           | 4           | 3           | 3           | 3           | 4           | 7           | 4            | 5            |
| 13) どれも該当しない。                         | 1           | 0           | 1           | 0           | 0           | 3           | 1           | 2           | 2           | 3            | 4            |

注：8以上（全体で50%以上の使用頻度）は網掛け、7以上（全体で40%以上の使用頻度）は太字、6以上（全体で35%以上の使用頻度）は下線。表4についても同様。

表4 得点下位群の問題ごとの解答行動

|                                       | 手紙やメールを読む   |             |             |             |             | 必要な情報を探し出す  |             |             |             |              |              |
|---------------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|--------------|
|                                       | 問題1<br>(A1) | 問題2<br>(A2) | 問題3<br>(A2) | 問題4<br>(B1) | 問題5<br>(B2) | 問題6<br>(A1) | 問題7<br>(A2) | 問題8<br>(A2) | 問題9<br>(B1) | 問題10<br>(B1) | 問題11<br>(B2) |
| 1) 質問に現れた単語と全く同じ単語を文章内で見つけようとした。      | 3           | 0           | 2           | 0           | 0           | 2           | 4           | 3           | 0           | 0            | 0            |
| 2) 質問に現れた単語と類似または関連する単語を文章内で見つけようとした。 | 5           | 3           | 3           | 1           | 0           | 2           | 3           | 4           | 1           | 0            | 0            |
| 3) 筆者が重要であると示した部分を文章から探した。            | 0           | 1           | 2           | 0           | 0           | 2           | 1           | 1           | 0           | 0            | 0            |
| 4) 文章の主要部分(冒頭部分や結論)を読んだ。              | 3           | 4           | 3           | 1           | 0           | 0           | 2           | 0           | 0           | 0            | 0            |
| 5) 質問中の難しい言葉の意味を理解しようとした。             | 0           | 0           | 1           | 1           | 1           | 1           | 0           | 1           | 1           | 0            | 0            |
| 6) 文章中の難しい単語の意味を理解しようとした。             | 0           | 0           | 1           | 1           | 1           | 0           | 0           | 1           | 1           | 0            | 0            |
| 7) 自分の語彙知識を使った。                       | 4           | 3           | 4           | 2           | 1           | 3           | 3           | 5           | 1           | 0            | 0            |

|                                    |   |   |   |    |    |   |   |   |    |    |    |
|------------------------------------|---|---|---|----|----|---|---|---|----|----|----|
| 8) 自分の文法知識を使った。                    | 1 | 3 | 2 | 2  | 1  | 1 | 0 | 0 | 0  | 0  | 0  |
| 9) 文章全体やその一部をゆっくりと慎重に読んだ。          | 3 | 5 | 2 | 1  | 0  | 0 | 1 | 1 | 1  | 0  | 0  |
| 10) 文章中で関連している部分をもう一度読んだ。          | 1 | 4 | 0 | 1  | 1  | 0 | 4 | 0 | 1  | 0  | 0  |
| 11) 文章構成の知識を利用した。                  | 0 | 3 | 0 | 0  | 0  | 1 | 1 | 1 | 1  | 0  | 0  |
| 12) 私がすでに持っている知識と文章内の情報を関連付けようとした。 | 2 | 2 | 1 | 0  | 1  | 3 | 3 | 3 | 0  | 0  | 0  |
| 13) どれにも該当しない。                     | 4 | 4 | 9 | 11 | 14 | 8 | 7 | 9 | 15 | 16 | 16 |

自由記述のコメントは26名の協力者からあった。コメントをまとめると、表5のようになる。難易度に関する指摘は、仕方のない面もあるが、学習意欲の維持を考えると、レベルに合った問題を出題するほうが望ましいと考えられる。文字のサイズについてはできるだけ解像度の高い画像を使用するなどしたが、使用デバイスがスマホであるため、協力者にかなりの負担を強いる結果となった。今後はPCを使っでの調査にするなどの対応が必要である。

表5 予備調査協力者の自由コメントのまとめ

|                     | 人数 | コメント例   |
|---------------------|----|---|
| 1) 難しい              | 6名 | ・難しいです。・難しすぎます。   |
| 2) 難易度の変化           | 6名 | ・優しい問題は易しく、難しい問題は難しすぎます。<br>・問題が後半に行くほど難しすぎます。<br>・最後の問題が少し難しく、他の問題はそれほど難しくなかった。  |
| 3) 文字サイズの小ささ、可読性の悪さ | 4名 | ・携帯電話で見ると画質が割れて長い問題文を読む意欲がなくなります。<br>・文字が小さくて拡大し・文字が小さすぎるし、スペースもなく書かれていて読みにくかった。<br>・スマホでしたためかとは分からないが、読みにくいです。日本語の文字が小さく拡大しなければならなかったし、拡大してもよく見えない場合もありました。可読性がちょっと良くないようです。 |
| 4) 量の多さ             | 2名 | ・アンケートの質問が多すぎます。集中力が落ちてしまう気分・・・<br>・問題が長すぎます。   |

#### 4. まとめと今後の展望

本稿では CEFR 読解指標に基づいて開発・実施した日本語テストの予備調査について報告した。今後は予備調査の結果を踏まえ、テスト項目作成過程の改善やテスト項目の修正等を行っていききたい。

#### 謝辞

本稿は韓国日本學會第 98 回國際學術大會において発表した内容を加筆修正したもので、会場内外で貴重なコメントをしてくださった皆様にお礼申し上げます。また本研究は JSPS 科研費基盤研究 (C) 18K00722 「CEFR 読解 CDS に基づいた問題仕様書の開発と妥当性の検証」の助成を受けたものです。

(2020 年 1 月 6 日 受理)

#### 参考文献

- [1] 和泉絵美・高田智子・小泉利恵・酒井英樹 (2018) 「SPOKEN PRODUCTION」『CEFR-J 2018 Symposium』配布資料
- [2] 塩澤真季・石司えり・島田徳子 (2010) 「言語能力の熟達度を表す Can-do 記述の分析—JF Can-do 作成のためのガイドライン策定に向けて—」『国際交流基金日本語教育紀要』6 号 23-39
- [3] 高田宏輝・宮崎佳典・谷誠司 (2017) 「韓国人日本語学習者のための CEFR 読解指標に基づく例文分類」『韓国日本學會第 94 回國際學術大會発表論文集』299-303
- [4] 中村洋一 (2002) 『テストで言語能力は測れるか—言語テストデータ分析入門—』桐原書店
- [5] “日本語 CEFR 読解指標 (CDS) 推定支援 Web アプリケーション” (<http://mya-lab1.cs.inf.shizuoka.ac.jp/~hirakawa/index.php> 参照日 :2020/1/1)
- [6] 根岸雅史 (2006) 「CEFR の日本人外国語学習者への適用可能性の向上について」『言語情報学研究報告』No.14 79-101. ([http://www.coelang.tufts.ac.jp/common/pdf/research\\_paper14/079.pdf](http://www.coelang.tufts.ac.jp/common/pdf/research_paper14/079.pdf) 参照日 :2020/1/1)
- [7] 宮崎佳典・平川遼汰・谷誠司・安志英 (2018) 「韓国人日本語学習者のための CEFR 読解指標に基づく例文自動分類」『韓国日本學會第 96 回國際學術大會発表論文集』79-82
- [8] Bax, S. (2013) The cognitive processing of candidates during reading tests : Evidence from eye-tracking. *Language Testing*, 30(4), 441-465.
- [9] Weir, C., Hawkey, R., Green, A., & Devi, S. (2009) The cognitive processes underlying the academic reading construct as measured by IELTS, in Thompson, P. (Ed.) *International English Language Testing System (IELTS) Research Reports 2009 : Volume 9*, 157-189. Retrieved January 1, 2020,

<https://search.informit.com.au/documentSummary;dn=070393809639076;res=IELHSS>

- [10]Wu,R.Y.(2011) Establishing the validity of the General English Proficiency Test reading component through a critical evaluation on alignment with the Common European Framework of Reference (Unpublished doctoral dissertation). University of Bedfordshire, Bedfords, Luton Bedfordshire, and Milton Keynes, Buckinghamshire, UK. Retrieved January 1, 2020, from <http://uobrep.openrepository.com/uobrep/bitstream/10547/223000/1/wu+ESTABLISHING+THE+VALIDITY+OF+THE+GENERAL.pdf>